



浅井明子さん

下着アドバイザー

喪服の着こなしに
真心が表れる

——下着アドバイザーという個人的な仕事をされている浅井明子さん。下着のスタイリングや、骨格からその方にぴったりのブラサイズを導き出して提案するパーソナルコーディネートなど、下着のスペシャリストとして活躍されています。下着アドバイザーとして20年になられるそうですね。

浅井 婦人下着の営業ウーマン時代、「どんな下着をつけたらいいかわからない」というお客様からのお悩みがとても多かったです。そういった方たちに良い下着を正しくつけていただきたいという思いから、独立してこの仕事を始めました。

——今日は「葬儀と下着」についてお聞きしたいと思います。喪服のときに着る下着って、何が正解なのでしょうか。

浅井 そうですね、葬儀では「故人を偲ぶ」という気持ちを表すことが大事だと思うんです。ですから下着はピンクなどの暖色系よりも、黒やブルー、グレー、ダークグリーンなどの寒色系を選んでいただきたいですね。

——喪服の着こなしに、ご用意いただくのがいいと思います。ブラの上に着るキャミソールも必要です。——喪服の下は見えないから下着は何でもいい、というわけではないんですね。他にはどんなことに気を付けたいのでしょうか。

浅井 素肌や下着が透けないようにして、身体の肉感をできるだけ出さないようにしましょう。腕や肩、背中などが気になる中年以降の年代の方は、身体に合ったブラをつけてしっかりとボリュームをおさめることで、身体に添った喪服の着こなしができ、上品な印象になります。

年齢に合わせて下着を選ぶ

——喪服の下着として必要な機能はどんなものでしょうか。

浅井 まず、喪服は家でリラクセスするときの服とは違います。最近はお胸付きキャミソールが人気ですが、これはできるだけ選んでいただくたくないですね。

——ブラとキャミソールが一体になっていて、とても便利だと思いますが、ダメなんでしょうか。

浅井 身体に合った下着をつける、本来のスタイルよりもきれいに見えます。「ブラは締め付けるもの」と思われがちですが、身体に合った下着をつけると快適なことのほうが多いんです。でも、下着の悩みは他人になかなか相談しにくいもの。そういう皆さんの悩みを聞いて、解決するお手伝いをするのが私の仕事。一人ひとりの気持ちに寄り添って、感謝を込めてご提案したいと思っています。

——今日はとても興味深いお話をお聞きすることができました。ありがとうございました。——ありがとうございます。

喪服の着こなしも

まずは下着から

下着の営業ウーマンからスタートし、現在では女性誌の下着特集などでも活躍されている、下着アドバイザーの浅井明子さん。喪服の下着の選び方から、心を込めた装い方についてなど、普段はなかなか聞くことのできない貴重なお話をうかがいました。

浅井 女性のバストは大きさにかかわらず流動的なので、サポート力の弱いカップ付きキャミソールではすぐにバストが流れてしまいます。ブラは接ぎのあるものをつけて、カップにしまい込むことで美しく立体的なバストを保つことができます。そしてその上にスリッパやキャミソールを着用します。カップ付きキャミを流用すると、バストが全体的に下垂するので、実年齢より老けて見えてしまうんです。

——本当ですか!? それは気を付けてなくては。それではお年を召した方はどうしたらいいでしょう。
浅井 ブラをつけるのも大変なこ

合った下着でよりきれいに、よりラクになってほしい

高齢の方は、逆に着やすさを重視してください。肌をカバーしてくれるカップ付きの半袖インナーは、冷えや汗にも対応してくれるのでおすすめです。下着は年齢に合わせて選ぶことも大切です。

——昨年、お父様を亡くされました。
浅井 はい。メモリードで、とても心こもったお葬式をしていただきました。父の葬儀が終わって改めて感じたのは、お葬式のときの身だしなみって大事なんだなということ。亡くなられた方やご家族への真心を

身体に合ったブラジャーで効果を実感！ 姿勢良く、美しい胸元に



バストトップの位置が低く、バストが横に流れている



バストトップの位置が高くなり、カップにすっきり収まっている



Profile

浅井明子(あさいあきこ)
1960年、東京生まれ。大学卒業後、鐘紡(株)にて下着専門店の営業として勤務。その後、都内の輸入下着専門店の広報を経て、99年独立。「おとなキレイは下着から」をモットーに、女性誌を中心にテレビ、ラジオ、webの媒体で体型や下着にまつわるQ&A、下着のお悩み解決などの企画監修や国内外の優良下着を調達、フィッティングも行う。一般の女性から読者モデルまで、身体に合った下着の使用前後の違いに「美しくラクになりみちがえる」と定評がある。個人カウンセリングや「女子ブラ会」など全国で開催している。監修書に『たのしい下着—もっと自由に選ぶ下着のレッスン』(技術評論社)がある。